



2025 年度

# 4月 園だより

社会福祉法人雲柱社  
五日市保育園

「この子にはこの子の育ちの時がある、これは神さまの時といえる。その子に備えられた育ちの時。」

桜の花も咲き、やわらかな春の日差しの中で新年度が始まりました。ご入園、ご進級おめでとうございます。新年度は 93 人のお友だちと一緒にスタートします。神さまが導いてくださったたくさんの出会いに感謝いたします。「神は人間を多様に造られました。顔も姿も物事に対する感じ方、考え方も、それぞれに違います。その違いを違いとして認め、子どもと保育者がともに育ちあうところから保育は始まります。」(キリスト教保育50の質問より)一人ひとりに備えられた育ちの時を大切に、焦らせたり、せかしたりすることなく、気持ちを受けとめ、寄り添いながら日々の保育を丁寧を守っていきたいと思います。新年度も一年間どうぞよろしくお願いいたします。

## 小さな社会へ

お家から保育園という小さな社会に入ってきた子どもたちは、お友だちと仲よく遊んだり、いろいろなことが出来るようになったり、嬉しいこと、楽しいことをたくさん経験します。でも、時にはお友だちとケンカをしたり、頑張ったのに失敗して悔しい経験をすることもあります。その過程で子どもたちは葛藤しながらも自分をコントロールすることを学び、和解や相手と折り合うすべを獲得していきます。また、仲間と一緒に過ごす喜びと楽しさを体験し、共に生きることの素晴らしさの中で成長します。子どもたちはこうして、お家では出来ない経験を通じ、コミュニケーション力や社会性も身につけていきます。子どもが育つには「上手い出来ない体験」もできる「子どもの社会」が絶対必要です。上手いかなかった経験が自分で考えるきっかけとなり、次へのステップとなります。

五日市保育園では「異年齢たてわり保育」を通して、子どもたちがたくさんの経験や、安心して失敗が出来る環境を整えています。転ばないように、失敗しないようにと大人が先回りばかりをして育てるのではなく「転んだらまた立ち上がる、失敗しても次にまた頑張れる力」「どうすればよかったのかを考える力」を大切に育てていきたいと思っています。そして一人ひとりがお互いの違いを認め合い、自分のことも周りの人のことも大切に出来る子ども、平和を作り出す子どもに育ってほしいと願っています。(園長 関根富美子)

## 子どもの祈り

かみさま  
いつも見てくださってありがとうございます。  
わたしたちは春が来て ひとつ大きな組さんになりました。  
新しい組になって すこし からだが大きくなりました。  
わたしたちの心も広がっています。  
小さい組には 小さな子どもたちがきて 保育園は子どもたちでいっぱいです。  
保育園の子どもたち ひとりひとりを どうぞ おまもりください。  
やさしい心って どんな心にかしら と考えることができますように。  
おもしろいこと 楽しいこと 不思議なことが見つかりますように。  
かみさまが わたしたちの体も心も 強めてください。  
このお祈りをイエスさまのお名前によって おさげいたします。アーメン

